

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

Driving Innovation to Enrich People's Lives 人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。

— 日産自動車のコーポレートパーパス —

日産は、コーポレートパーパスを定めました。「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。」

これは長年にわたり掲げてきた企業ビジョン、「人々の生活を豊かに」を踏まえ、創業以来大切にしてきた「他がやらぬことをやる」という精神を引き継ぎながら、日産は何のために存在するか、どのように役割を果たすのか、に応えるものです。

イノベーションは、日産がお客さまのニーズにお応えし、社会にインパクトをもたらす、従業員やステークホルダーの皆さまの活力を引き出すことを可能にします。

世界中の日産従業員は、お客さまのご満足のために、成功のために、社会の発展のために、情熱をもって絶え間なくイノベーションをドライブし続けています。

日産は、お客さまと社会全体を、よりクリーンで安全な道のりへと導き、美しい地球の維持、発展に貢献し、人の命を守っていききたい、そのための挑戦を続けていきます。

「他がやらぬことをやる」

日産のDNA

Passionate
情熱的

Innovative
革新的

Challenger
挑戦者

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI102-15 GRI102-29 GRI201-2 GRI203-1 GRI203-2

E 環境 気候変動シナリオ分析を用いた環境戦略の強化について

日産の環境取り組みは、長期ビジョンからバックキャストしたマイルストーンを確実に達成する事で継続的な成果を収めてまいりました。しかしながら、2006年に気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の報告書から、2℃シナリオに基づいた長期ビジョンを策定した当時に比べ、気候変動による異常気象の脅威は一段と高まっており、不確実性が拡大する中でさらにレジリエントな戦略の強化が必要と考えています。

シナリオ分析は、将来の可能性を検討するひとつのツールとして、これまでの2℃を前提とする環境戦略への影響の振れ幅を確認し、拡大する移行リスクや物理的リスク、また機会の変化に柔軟に適應できる状況であるかを検討しています。

想定したシナリオと関連する機会とリスク

想定シナリオ	影響領域	拡大する気候変動が事業活動に与える機会とリスク
1.5℃	政策と法規制	さらなる自動車の燃費や排出ガス規制の強化に対応する、電動パワートレイン技術の開発や生産コストの増加 炭素税の拡大によるエネルギーコストの負担増加と、対策としての省エネルギー設備への投資拡大
	技術変化	車載電池などのEV関連技術や、自動運転技術の拡大など次世代自動車技術の採用によるコスト影響 需要拡大により、車載電池材料である希少金属のサプライチェーン影響やその安定化の為のコスト増加
	市場変化	消費者の意識変化による、公共交通機関や自転車の選択や、モビリティサービスへの移行による新車販売台数減少の可能性
	機会	EVのエネルギー充放電技術であるV2X(Vehicle to Everything)による電力マネジメント機会の提供拡大とEV価値の再認識(特にV2G(Vehicle to Grid)において)
4℃	異常気象	大雨、渇水など異常気象によるサプライチェーンへの影響と生産拠点の操業への影響と、損害保険料や空調エネルギーの費用の増加
	機会	防災・減災対策として、EVバッテリーを使用した緊急電源確保のニーズが増大

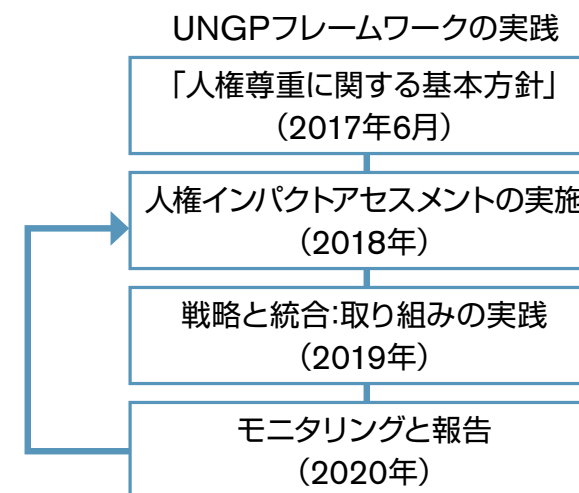


目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI103-1 GRI103-2 GRI103-3 GRI412-1 GRI412-2 GRI414-1

S 社会性 日産の人権尊重への取り組み

自動車業界は調達から製造、販売、使用、リサイクルに至るライフサイクルにおいて、幅広く多くのステークホルダーと協業しています。2004年には、いち早く「国連グローバル・コンパクト」に署名し、サプライヤーとともに取り組むための各種ガイドラインの整備を行ってきました。2016年からは、より戦略的な取り組みに着手、フレームワークとして国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」(UNGP)を参照し、2017年に「人権尊重に関する基本方針」を策定、発行。デューディリジェンスの一環として人権インパクト・アセスメントを2018年から実施し、課題の把握と是正そして年次での報告を行うことで、今後取り組みをより一層強化していきます。また、従業員にとどまらず、すべてのステークホルダーの内部通報が可能となるSpeakUp というグローバルで統一したシステムを導入し、寄せられた報告への対応を行っています。



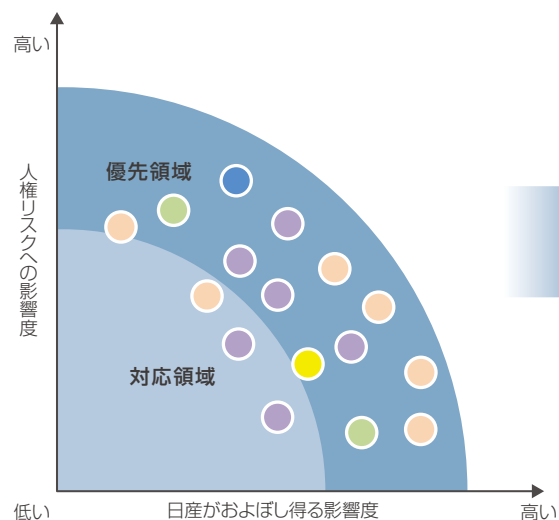
目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI102-29 GRI102-47

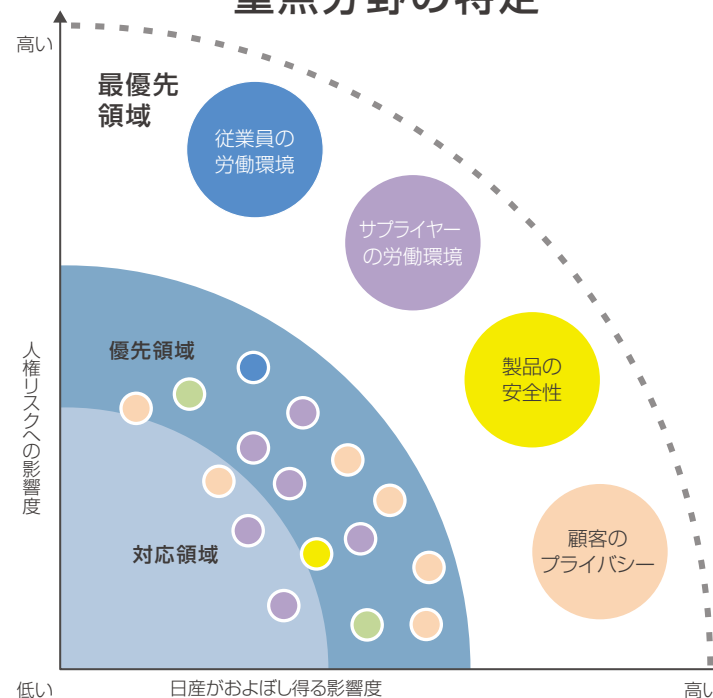
人権尊重の取り組みにおける重点分野を特定

日産は、国連グローバル・コンパクトに署名し、世界人権宣言や国際労働機関 (ILO) の「職場における基本的原則と権利に関する宣言」を踏まえ、国連「ビジネスに関する指導原則」に則り実践しています。まず、自動車会社として人権に影響を及ぼす要素を特定するべく、人権リスクへの影響度と日産がおよぼし得る影響度の二つを視点とした人権インパクトアセスメントを実施し、優先領域と対応領域に分類しました。さらに、優先領域と特定した要素の中から、事業戦略や事業活動を織り込んで、日産が取り組むべき最優先領域として4つの重点分野を特定しました。

人権インパクトアセスメント



重点分野の特定



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI403-2 GRI403-4 GRI406-1 GRI407-1 GRI408-1 GRI409-1 GRI411-1 GRI412-1 GRI412-2

従業員の労働環境に関する取り組み事例

日産は、2019年11月、日産サウスアフリカ会社において米国のサステナビリティ推進団体であるBSR (Business for Social Responsibility) とともに人権インパクトアセスメントを実施しました。従業員の労働環境にかかわる人権リスク評価* を行い、全体として低リスクであることを確認しましたが、改善項目については、フォローアップ計画を策定し、2020年度以降継続的に取り組めます。

*評価項目：労務管理体制、救済措置へのアクセス、強制労働、児童労働、若年層労働、生活環境、差別、結社の自由



日産サウスアフリカ会社の従業員



ワークショップ中の従業員



日産サウスアフリカ会社

基本情報 工場従業員数: 1,200名
調査の対象 合計人数: 42名(マネジャー、直接従業員、間接従業員)

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI406-1 GRI407-1 GRI408-1 GRI409-1 GRI411-1 GRI412-1 GRI412-2 GRI414-1

サプライヤーの労働環境に関する取り組み事例:責任ある鉱物調達

日産は、グローバル市場におけるサプライチェーンのあらゆる段階において、倫理、社会、環境に配慮した事業活動が行われることを目指します。

日産は2013年に紛争鉱物調達方針を策定し、さらに2020年7月には「日産グローバル鉱物調達に関する方針」を公開しました。方針の対象範囲は、従来の3TG（錫、タングステン、タンタル、金）に加えて、コバルトも含む、紛争地域および高リスク地域から調達するすべての鉱物に拡大しました。

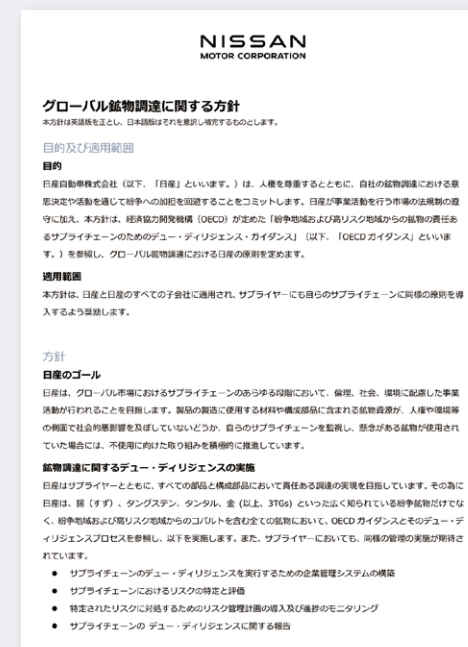
この方針に則り、OECD デュー・ディリジェンス・ガイダンスを参照しながら、サプライチェーンにおける鉱物調達に関するデューディリジェンスを実施し、サプライヤーとともに、リスクを査定し、問題が確認された際は、是正する活動を、今後より一層強化していきます。

紛争鉱物のデューディリジェンス

2019年度は、日本、米国、メキシコ、欧州、中国、タイ、インドネシア、台湾、インド、南アフリカ、ブラジルの11市場で大規模な調査を実施。武装勢力とかがわっているとみられる製錬業者から調達した鉱物を使用しているサプライヤーは確認されませんでした。

コバルトのデューディリジェンス

2018年から主要バッテリー・サプライヤーへのヒアリングを実施し、定期的にフォローアップを行っています。OECD デュー・ディリジェンス・ガイダンスを参照し、コバルトの製錬所、精製所の特定へ向けた取り組みを強化していきます。



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI102-18 GRI102-19 GRI102-22 GRI102-23 GRI102-24 GRI102-28 GRI102-35

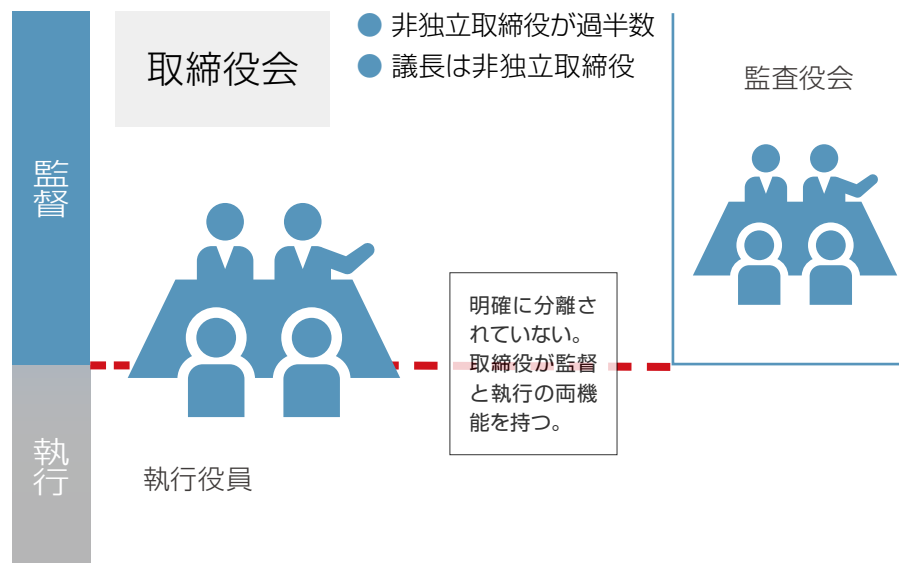
G ガバナンス体制の変革

日産は、2019年6月25日に、指名委員会等設置会社へと会社の体制を変更し、指名委員会、報酬委員会、監査委員会を設置しました。ガバナンスは私たちが社会から信頼される企業であるために欠かすことができない、企業活動の基盤となる領域です。今後もコーポレートガバナンスの向上を経営に関する最重要課題のひとつとして取り組むとともに、社会からの要請や社会的責任を常に意識しながら事業活動を展開し、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

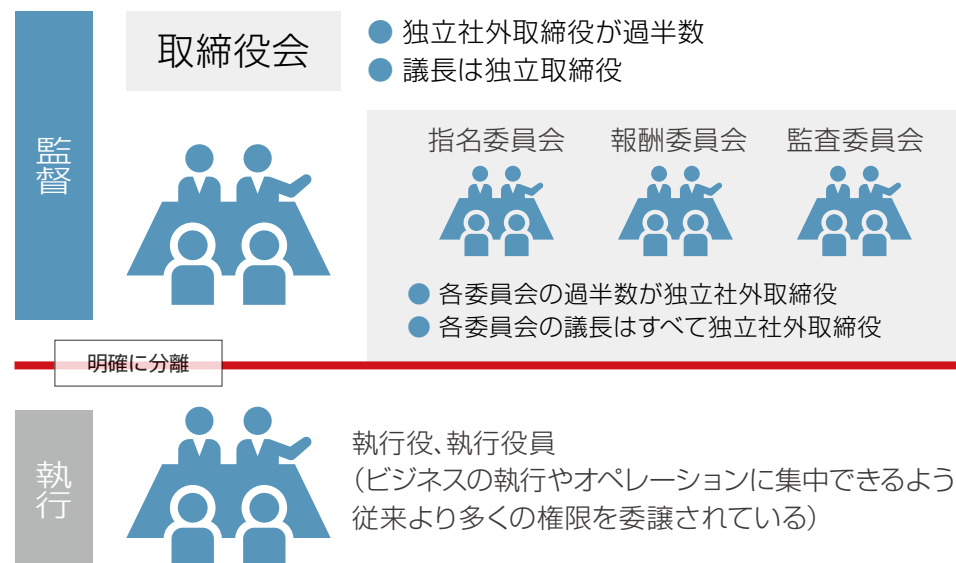
新体制の主なポイント

1. 執行と監督の分離
2. 取締役会の独立性の向上
3. 意思決定プロセスの透明性向上
4. 迅速で柔軟性ある業務執行

2019年6月24日以前



2019年6月25日以降



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

取締役会 2019年度

取締役会は、独立性を有する社外取締役がけん引し、多様な視点から経営の基本方針を決定するとともに、執行役などの職務執行を監督する役割を担っています。

2019年度の主な活動

- 取締役会では、法令および取締役会規則に基づき、株主総会議案、各委員会の構成員、事業計画ならびに商品戦略等の当社グループ経営にかかわる重要事項等について決議しています。また、四半期毎の決算に加え、業務執行状況の進捗、内部統制に関する活動等について定期的に報告を受けており、中期経営戦略についても議論を実施しています。
- 取締役会の議論の充実化を目的として、筆頭独立社外取締役が議長を務める社外取締役のみによる会合を定期的開催し、当社のコーポレート・ガバナンスおよびビジネスに関する事項等について幅広く議論しています。本会合を通じて得た意見を経営と以降の取締役会議論に反映する運営を行っています。
- また、当社事業に関する理解促進のため、執行側からのビジネスブリーフィング、現場の視察会、試乗会等、年間を通じて、取締役向けのさまざまな研修プログラムを実施しています。
- 2019年度(2019年6月～2020年3月)の取締役会の開催数は11回、一回当たりの平均参加率は99%となっています。

取締役一覧

独立社外取締役

取締役



木村 康
(きむら やすし)
独立社外取締役

取締役会議長
報酬委員会委員
監査委員会委員



Jean-Dominique Senard
(ジャンドミニクスナール)
取締役

取締役会副議長
指名委員会委員



豊田 正和
(とよだ まさかず)
独立社外取締役

筆頭独立社外取締役
指名委員会委員長
監査委員会委員



井原 慶子
(いはら けいこ)
独立社外取締役

報酬委員会委員長
指名委員会委員



永井 素夫
(なかい もとお)
独立社外取締役

監査委員会委員長
指名委員会委員
報酬委員会委員



Bernard Delmas
(ベルナル・デルマス)
独立社外取締役

報酬委員会委員



Andrew House
(アンドリュー・ハウス)
独立社外取締役

指名委員会委員



Jenifer Rogers
(ジェニファー・ロジャース)
独立社外取締役

報酬委員会委員
監査委員会委員



Pierre Fleuriot
(ピエール・フルーリオ)
取締役

監査委員会委員



内田 誠
(うちだ まこと)
取締役

代表執行役社長兼
最高経営責任者



Ashwani Gupta
(アシュワニ・グプタ)
取締役

最高執行責任者兼
チーフパフォーマンス
オフィサー



坂本 秀行
(さかもと ひでゆき)
取締役

執行役副社長

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI102-27

取締役向け研修プログラム 2019年度

日産のビジネスに関する理解促進のため、執行サイドからのビジネスブリーフィング、現場の視察会、試乗会等、年間を通じて、取締役向けのさまざまな研修プログラムを企画、実施しています。

ビジネスブリーフィング

- ・世界の拠点等、日産のビジネスオーバービュー
- ・中期計画、パフォーマンスリカバリープランなど
- ・日産のブランド、商品、技術、試乗、将来計画など

各種説明会

- ・日本の会社法に則った、取締役・執行役の責務について
- ・コーポレートガバナンスガイドライン、取締役独立性基準、取締役規程、内部統制基本方針、委員会規程など、コーポレートレベルでのルールや諸規程について
- ・コンプライアンス規程、行動規範など

施設見学、試乗会

- ・追浜工場見学および試乗会 (2019年8月)
- ・東京モーターショー2019サイト見学 (2019年10月)
- ・グローバルデザインセンター見学 (2019年11月)
- ・グローバルR&D施設の見学 (2019年11月)



プロダクトブリーフィングにて



東京モーターショー2019



グローバルデザインセンターにて

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI102-22 GRI102-24

委員会活動報告 指名委員会 2019年度

指名委員会は、株主総会に提出する取締役の選任および解任に関する議案の内容の決定、取締役会に提案する代表執行役の選定および解職に関する議案の内容の決定、および社長兼最高経営責任者の後継者計画の内容の策定および年次の検証を行う権限を有しています。

メンバー

委員長



豊田 正和
(2019年6月-)



木村 康
(2019年6月-)



ジャンドミニク・スナール
(2019年6月-)



永井 素夫
(2019年6月-)



井原 慶子
(2019年6月-)



アンドリュー・ハウス
(2019年6月-)

青字：
独立社外取締役
赤字：
非独立社外取締役

6名中5名が独立社外取締役

2019年度*の指名委員会開催総数は9回

開催一回当たりの平均参加率は96%

*2019年6月に指名等委員会設置会社へ移行してから2020年3月までの間。

注：左記顔写真下のカッコ内の年月は、委員会への参加年月（取締役就任年月とは異なる）。

2019年度の主な活動

- 代表執行役の選任議案を審議
- 臨時株主総会に提出する取締役選任議案を審議
- 第121回定時株主総会に提出する取締役選任議案について審議
- 社長兼最高経営責任者の後継者育成計画プロセスについて審議

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI102-22 GRI102-35

委員会活動報告 報酬委員会 2019年度

報酬委員会は、法定の権限である取締役および執行役の個人別の報酬等の内容にかかわる決定に関する方針、取締役および執行役の個人別の報酬等の内容の決定に加え、取締役および代表執行役の個人別の報酬額を決定する権限を有しています。

メンバー

委員長



井原 慶子
(2019年6月-)



永井 素夫
(2019年6月-)



ベルナルド・デルマス
(2019年6月-)



ジェニファー・ロジャーズ
(2019年6月-)

青字:
独立社外取締役
赤字:
非独立社外取締役

4名中4名が独立社外取締役

2019年度*の報酬委員会開催総数は**13回**

開催一回当たりの平均参加率は**100%**

*2019年6月に指名等委員会設置会社へ移行してから2020年3月までの間。

注: 左記顔写真下のカッコ内の年月は、委員会への参加年月(取締役就任年月とは異なる)。

2019年度の主な活動

- 取締役および執行役の報酬に関する方針の決定
- 報酬水準検討のための参照先とするベンチマーク企業を選定、外部第三者専門機関の調査結果も踏まえた報酬水準の審議
- 取締役および執行役の当事業年度の報酬額および個人別の報酬等の決定
- 執行役の退任にともなう報酬決定方針の策定および退任時報酬額の決定
- 株価連動型インセンティブ受領権の廃止決議および新インセンティブ報酬制度の審議

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI102-22 GRI102-28

委員会活動報告 監査委員会 2019年度

監査委員会は、内部統制システムの構築・運用状況を含む業務執行の監査の一環として、年度監査計画に従って、また、必要に応じて、執行役、執行役員および使用人から、当社およびグループ会社の業務執行に関する報告を受けています。

メンバー

委員長



永井 素夫
(2019年6月-)



木村 康
(2019年6月-)



豊田 正和
(2019年6月-)



ジェニファー・ロジャーズ
(2019年6月-)



ピエール・フルーリオ
(2020年2月-)

青字：
独立社外取締役
赤字：
非独立社外取締役

5名中4名が独立社外取締役

2019年度*の監査委員会開催総数は**10回**

開催一回当たりの平均参加率は**100%**

*2019年6月に指名等委員会設置会社へ移行してから2020年3月までの間。

注：左記顔写真下のカッコ内の年月は、委員会への参加年月（取締役就任年月とは異なる）。

2019年度の主な活動

- 元会長を被告とする損害賠償訴訟の提起、その他元会長らによる重大な不正行為に関する責任追及と損害回復のための適切な措置の実施
- 会計監査人からの当事業年度における四半期レビュー結果報告の聴取
- 当社製造拠点および国内外主要子会社の往査(3拠点および21社)
- グループ各社の監査品質向上を目的とした連絡会の実施

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

[GRI102-14](#) [GRI102-15](#) [GRI102-19](#) [GRI102-23](#) [GRI102-28](#)

木村取締役会議長メッセージ

かねてより変革のさなかにあった自動車産業が持続可能な社会の発展に対して果たす役割は、新型コロナウイルス感染拡大が社会に大きな影響を与えるなか、より重要になっていると言わざるを得ません。社会に有益なモビリティやサービスを提供し、さらなる技術革新を進めることによりすべてのステークホルダーに喜ばれる価値を創出し続けていくことに加え、今直面しているグローバルかつ未曾有の危機に全社・総力を挙げて柔軟かつ果敢に対応し、その解決を通じた社会への貢献と経済の回復・発展に寄与していくことこそが、今の日産に求められています。持続的な成長と安定的な収益の確保を目指す新たな事業計画の遂行はいうまでもなく、このように先行き不透明な時代だからこそ、実効性あるガバナンス体制の確実な運営やコンプライアンス遵守の徹底が、日産のステークホルダーの皆さまの安心や信頼回復のために、ますます重要になっていると考えます。

昨年度、日産は、指名委員会等設置会社に移行しました。新体制初年度となるこの一年間、私は取締役会議長として、「透明性を持ち公平無私という精神で、取締役会の運営、活性化に取り組む」という初心に基づき、活発な議論と執行役への効果的な助言や監督を行う取締役会の運営を進めてまいりました。多様な経験や視点を持つ他の取締役とともに、株主総会議案、事業計画および商品戦略、業務執行状況の進捗、内部統制に関する活動などについて議論を重ね、経営の基本方針を決定するとともに、執行役を監督する役割を担ってまいりました。特に、本年5月に発表した事業構造改革計画「Nissan NEXT」は、執行側が原案を策定し、取締役が、独立した客観的な立場から助言・監督を行うことで完成させた、両者の協働の大きな成果といえます。また、指名、報酬、監査の3委員会においても、独立社外取締役が務める各委員長のけん引により、新たな代表執行役の選任、取締役・執行役の報酬の決定、元会長の不正に関連する刑事・民事訴訟の対応など、それぞれに大きな実績を残した一年となりました。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

これに加え、社外取締役のみによる会合を定期的に行い、コーポレート・ガバナンスやビジネスについて幅広く議論することで取締役会の更なる活性化を図ったり、定期的に現場に出向いて、視察や試乗会に参加し、執行サイドからのブリーフィングを受けるなど、日産の事業や業界に関する理解を深め、日産の事業や業界に関する理解を深めるべく努めています。新体制立ち上げ以降、取締役一同、志を持って、取締役会の実効性向上に努め、監督機能を果たすことにまい進してきました。2020年度は、新しいガバナンス体制も2年目に入ります。この1年で築いてきた運営基盤をさらに盤石にし、取締役の知見をいかして、健全な監督と執行のバランスを図ってまいります。スタートを切ったばかりの「Nissan NEXT」についても、迅速・果断に計画を実行する執行側を取締役会として継続してモニタリング・監督することで、日産ならではの挑戦をサポートし、その再生ストーリーに貢献していきたいと考えています。

100年に一度の大変革期にある自動車業界は、新型ウィルスの拡大という厳しい環境におかれながら、クルマの電動化、自動運転技術、コネクテッド技術やサービスへの進化の真ただ中にあり、従来のあり方に囚われない、さらなる脱皮が求められています。日産が再び成長軌道に乗り、社会と会社の持続的発展、即ちサステナビリティの一層の向上に貢献できるよう、取締役会の責務を果たしてまいります。

木村 康

日産自動車株式会社
取締役会議長

